

平成18年度 食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修・講義2

## 小学校低学年における＜食に関する指導＞

- 生活科における食に関する指導のポイントを中心に -

上越教育大学 木村吉彦

### 1. 小学校低学年「食育」の前提～資料：『食教育論』、『食育マニュアル』

味覚の発達... 3～6歳の食経験に依存

好き嫌いの発生... 8割が園・低学年で

食文化...日本人としての味の基本、箸の持ち方、(マナーは食べることが窮屈にならない程度でいいのではないのでしょうか、低学年の場合)

食の安心・安全...教師の(食べ物に対する)姿勢の問題

### 2. 生活科における食指導

～資料：「食を通じた子どもの健全育成のあり方に関する検討会」報告書について

～資料：「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料 第5章 生活」

～資料：「高志小学校の生活科の特色」(写真あり)

幼保小の連携...幼児期からの連続のなかで考える

**幼児期：一生を通じての食事リズムの基礎づくり**(おなかがすくリズム、食べたいもの・好きなものが増える、家族や仲間と食べる楽しさ、栽培・収穫・調理そして食べ物との出会い、食べ物・身体への興味)

幼児期からの食体験の把握(幼稚園・保育園との情報交換)

**学童期：体験や食に関わる活動を通して食への興味・関心が深まり、自分が理解したことを積極的に試してみようとする力が育つ**(食べたい・作りたい・もっと知りたい・誰かに伝えたい、家族や仲間さらには地域や暮らしのなかで食の楽しさを実感する、食を楽しむ心と食の世界の広がり)

食に関する体験を豊富に提供、日常の給食指導との連携

食材づくり体験～栽培活動を中心に...内容(7)「動植物の飼育・栽培」

**自分で作ったものなら、ピーマンも喜んで食べる子どもたち(「格別」の意味)**

野菜等の生長の喜び(自分の成長実感との重複)、「生命あるもの」の実感(「いただきます」の意味)、丹誠込めて大切に育てる経験、野菜への愛着＝食材への愛着、参考：動物飼育で言えば「ヤギのお乳」でチーズやクッキーを作る体験も可能。

○NHK特集('06.6.4.)より：残飯<sup>ゼロ</sup>の実践＝「たべもの手作り教育」(高知県南国市)  
自分たちで作った野菜が給食室へ直行

調理体験...内容(2)「家庭と生活」、(8)「自分の成長」、(1)「学校と生活」

**調理し、食べ、後片付けするという一連の「(家事としての)食事作り」体験**

食材が食べ物(食品)としてできあがるまでの実体験、片づけまで済ませて一つの仕事であることを体験させる、家事(食事作り)の内容を知る、食事を作ってくれる家族(や調理員さん)の苦労・大変さが分かる、大変さの実感から作ってくれた人への感謝の心を育てる、調理を通して(家族や調理員さん等が)自分の成長を支えてくれていることが分かり、感謝の気持ちを持つことができる。

会食体験...内容(2)「家庭と生活」、(1)「学校と生活」

**みんなでおなじものを一緒に食べる体験、家庭にも持ち帰らせたい体験**

自分たちで育てた食材を自分たちで調理したものをたくさんの人(例:家族、クラスメイト)と共に食事をする事で、みんなで食べる喜び・楽しみを実感する。

家庭の温かさ、家族の大切さ、友達と共に生活する楽しさ・喜び

今問題の「孤食」や「個食」への対応、親も巻き込んだ「食育」

「孤食」=「孤独食」、ひとりぼっちの食事

「個食」=家族全員分の食事ができているにもかかわらず、食べたいものだけ、もしくはその時の気分で気ままに食べる事。個人本位で一見「自主性」を重んじているようにも見えるが、実は「わがまま」を許しているだけ。しつけのできない親。栄養の偏りが大問題。(先のNHK特集のタイトルが『好きなものだけ食べたい』であった。「個食」を象徴する言葉。)

-----

**資料紹介**

- ・大村省吾・川端晶子編『食教育論 豊かな食を育てる』(昭和堂, 2005)
- ・財団法人 食生活情報サービスセンター『食育マニュアルー食と農への理解を深めるためにー』(2005)
- ・厚生労働省「食を通じた子どもの健全育成のあり方に関する検討会」報告書について  
(厚生労働省HP)
- ・国立教育政策研究所「評価規準の作成, 評価方法の工夫改善のための参考資料(小学校)」(平成14年2月)より 「第5章 生活」
- ・拙稿「高志小学校の生活科の特色」(未発表原稿)

**○その他参考資料**

- ・拙著『生活科の新生を求めて~幼小連携から総合的な学習まで~』(日本文教出版, 2003)
- ・新潟県生活科・総合的な学習研究会HP内「よっちゃんの部屋」  
( ' yahoo JAPAN ' を開き、「生活科」で検索すると上記のHPが出てきます。)
- ・木村の研究室メールアドレス: kimura@juen.ac.jp (質問等随時受け付けます。(^\_^)/~)